



クローズアップ CLOSE UP

触れ合い通じ活動理解

2月25日に前橋プラザ元
気21で、Mサポふれあい祭りを
開催。合わせて市民活動表
彰式も行いました。会場では
ステージ発表やパネル展示、
体験コーナーなどが。訪れた
人たちは市民活動をする人た
ちと触れ合いながら、活動を
理解しました。



改選後初の議会始まる

議員改選後初の前橋市議会
が3月2日から始まりまし
た。初日には正副議長を決める
投票を行い、議長に金井清一議
員(写真右上)、副議長に笠原
久議員(写真右下)を選出。
本会議は傍聴できるほか、イ
ンターネットで生中継も。日
程は3月29日(水)までです。



前橋産の花々の競演

3月1日・2日、けやきウ
ォーク前橋を会場に花共進会を
開催。桜や花桃、バラ、鉢物、
サボテンなど約130点が出品
され、訪れた人たちの目を楽
しませていました。終了前には
即売会を実施。地元で栽培
された花を買い求める人たち
でにぎわいました。



CITY WATCHING

いきいき
まえばし人

持田千恵さん・43歳

あびりてい 代表理事
鶴光路町

可能性を見つけ活躍の場を



障害福祉サービスを行う一
般社団法人「あびりてい」の
フリースペースが、本町一丁
目に誕生。代表理事を務める
のが持田千恵さんだ。

「この施設では、障害者や
高齢者など、社会で生きづら
さを感じている人たちの相談
に乗ったり、ワークショップ
を行ったりしています」

同法人の設立やフリースペ
ース開設のきっかけは、これ
までの福祉に関わる仕事をす
る中での気付きだと言う。

「支援をする側と受ける側
という関係に違和感を覚えま
した。逆に私の方が、利用者
から元気をもらったり学んだ
りすることが多かったのだ。

体が不自由でも、得意なこと
やその人ならではの表現があ
るんです。それを生かせる場
をつくりたいと思いました」

そんな思いを持って開設し
たフリースペース。一人一人
の可能性をみんな探し出す
ことを大切にしている。

「生きづらさを感じている
人は、自分らしい生活ができ
ていない人が多い。自分らし
さを生かせる活躍の場を見つ
けられれば、人生は豊かにな
るはず。そのお手伝いを
していきたいですね」

持田さんの活動はスタート
したばかり。誰もが自分らし
く活躍できるよう、一人一人
の可能性を見いだしていく。

最終回
ART STORY
広がるアーツ前橋



最終回は、県立近代
美術館学芸員の田中龍
也さんが、企画展「加
藤アキラ 孤高のプリ
コルール」について語
ります。

図 アーツ前橋
☎ 027-230-1144

加藤さんは高崎市出身・在
住の作家ですが、1960

年代、前橋を拠点に活動した
前衛美術家集団群馬NOMOG
グループの中心メンバーでした。

県立近代美術館では、昨年
「群馬NOMOGグループの全貌」
展を開催。加藤さんとグルー
プのリーダー格だった金子英
彦についてはアーツ前橋が主
要作品の多くを収蔵していま
す。関係作家や遺族はもちろ
んですが、地域ゆかりの作家
の作品を収集してきたアーツ
前橋の協力があってこそ実現
できた展覧会です。

今度はアーツ前橋の「加藤
アキラ」展に「群馬NOMOG
グループの全貌」展の成果が
多少なりとも反映されるでし
ょう。今後も県と市の立場を
超え、協力しながら地域美術
の研究を深め、将来は共同企



展覧会では地域とアートの関
わりも感じてほしいですね

画の展覧会も実現したい、と
個人的には考えています。
アーツ前橋は地域の資源を
活用し、作家や市民を巻き込
んで活動しています。先に開
催された「前橋の美術」展も
そうですが、それによって前
橋の美術活動が盛んになり、
まち全体にも波及していると
感じます。一方、アーツ前橋
より40年近く長い歴史を持つ
当館は、現在、県内の作家や
地域社会とどのような関わり
を持てているだろうか、と考
える日々です。